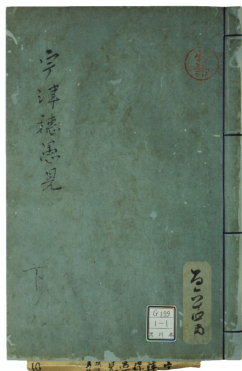
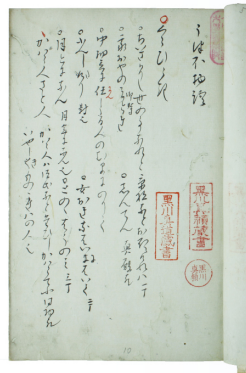


林諸鳥著『宇津穂愚見』



函架番号 G-199。写本1巻1冊。縦 23.9cm × 横 15.9cm。袋綴 66 丁。料紙は楮紙。外題(直書)「宇津穂愚見 下」、内題「うつほ物語」。「黒川真頼蔵書」「黒川真頼」「黒川真道蔵書」の蔵書印が巻首にある。また、表紙に「物語」の印がある。奥書に「寛政六年甲寅季冬読畢 按卷々次第不詳且多誤字 後日用写本当校合者也」とある。

林諸鳥(1720-1794?)による『うつほ物語』の簡易な注釈書である。記載内容からその著者が知れるが、これはその自筆本である。江戸時代、『うつほ物語』は版本で刊行されたが、巻序や本文などに大きな問題を抱えていた。その結果、当時の国学者や愛好家たちを悩まし続けた。本資料はそうした腐心のよくわかるものである。



林諸鳥は饅頭屋の家系で、代々文学に関して特筆すべき人物が多く、その祖の林宗二は『源氏物語』の注釈書である『林逸抄』を著した。また、本学所蔵の『栄花愚見』も本書の類書で、これも諸鳥自筆の『栄花物語』の注釈書である。歌人として活動していた諸鳥は『紀記歌集』『六帖類苑』など歌集の編纂も手がけている。

『宇津穂愚見』に関する限り、興味深い史料ではあるものの、諸鳥最晩年の仕事であったせいか草稿に近い状態であり、その完成度はあまり高くない。他の機関にその所蔵を聞かない天下の孤本である。(なお、林諸鳥の事績については桜井宏徳氏の教示を受けた。)

(日本語日本文学科 准教授 原 豊二)